

## (一般質問)

質問日	令和7年6月6日(金)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	自由民主党浜松	議席番号	16	氏名	小野田 康弘
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 インドとの連携について	<p>令和6年12月に中野市長がインドを訪問し、半年が経過した。この間、産業部ではアーメダバード市との友好協定の締結やインド人材(ワーカー)獲得のための取り組みを進めていることを承知している。また、インド人材(ワーカー)を獲得するには、インドの送り出し機関との連携が重要である。さらに、インド人材(ワーカー)を受け入れる際には、生活環境を整え、異文化を持つ人々がお互いを理解し尊重し合いながら、地域社会の一員として共存することが求められる。そのため、市民レベルでの文化交流は、相互理解を促進する重要な要素であると考えます。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) インドの送り出し機関の現状と課題、今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) インドとの経済連携促進につながる市民交流の取り組みについて伺う。</p> <p>(3) 特に、本市とアーメダバード市における共通の風揚げ文化の交流について伺う。</p>						北嶋産業部長 中野市長 "
2 市立幼稚園の外国にルーツを持つ園児への支援について	<p>本市の市立幼稚園では、共働き世帯や核家族化の増加など、社会環境の変化及び少子化により、園児数が減少している。そのような園児数の減少傾向の中で、本市の令和7年4月時点における外国人住民数は30,286人と、多くの外国人住民が暮らしており、外国にルーツを持つ園児が増えている幼稚園もあると聞いている。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 本市における外国にルーツを持つ園児の動向と、幼児教育の課題について伺う。</p> <p>(2) 外国にルーツを持つ園児への支援の取り組みと、今後の支援の方向性について伺う。</p>						野田こども家庭部長
3 休日部活動の地域展開について	<p>先月、国から発出された「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の最終とりまとめには、これまで使用してきた部活動の「地域移行」という名称を、部活動の「地域展開」に変更し、令和8年度から令和13年度を改革実行期間として、確実に休日部活動の地域展開に着手することが示された。</p> <p>そのような中、本市が定める令和8年9月以降の地域展開まで、1年3か月あまりとなった。本市は令和5年度に「協議会」を設置し、令和6年度には、その下にワ</p>						吉積学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について	<p>ーキンググループを設けるなど、児童・生徒を第一に考えた地域展開に向けた協議を進めていると承知している。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 本市の地域展開に向けた具体的な方向性と、その周知状況について伺う。</p> <p>(2) 今定例会において、「部活動地域展開等推進事業」について補正予算が計上されているが、具体的にどのような検証を進めていくのか伺う。</p> <p>(3) 地域クラブ活動に地域展開した際には、指導者の人件費や施設使用料の負担が発生するが、参加者の負担を軽減するための支援についての考えを伺う。</p> <p>毎年、国では全国体力・運動能力、運動習慣等調査を小学校5年生・中学校2年生を対象に行っている。本市においてもこの調査に参加し、調査結果も公表されている。本市の令和6年度の体力合計点の結果では、小学校5年生の男子、女子ともに全国平均を下回っている。また、種目別においても全国平均を下回るものが多い。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 本市では、調査結果をどのように認識しているか伺う。</p> <p>(2) 調査結果を踏まえ、本市としての小学生の体力の維持・向上に向けた取り組みについて伺う。</p>	吉積学校教育 部長
5 浜松アカデミック・メディカル・アライアンスの事業展開について	<p>昨年11月に本市と国立大学法人浜松医科大学の間で一般社団法人浜松アカデミック・メディカル・アライアンスが設立された。その後、静岡県知事の認定を受け、本年4月に地域医療連携推進法人として正式に設立された。地域医療連携推進法人は、医療機関相互の機能分担及び業務の連携を推進し、質の高い医療を効率的に提供することにより、地域医療構想を達成するための制度である。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 静岡県西部医療圏に設立された初の地域医療連携推進法人である浜松アカデミック・メディカル・アライアンスについて、その特長を伺う。</p> <p>(2) 設立初年度の重点事業について、どのような方針を持っているか伺う。</p>	平野医療担当 部長
6 系統用蓄電所について	<p>市内において、送電線に直接接続する系統用蓄電所の計画があると聞いている。小型のモバイルバッテリーなどのリチウムイオン電池は、発火・爆発等のニュースなどがあり、大型蓄電施設に対し、周辺住民が不安視する可能性がある。</p>	鈴木カーボン ニュートラル 推進担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>こうしたことから、事前に計画を説明するような仕組みの構築が必要と考えるが、本市として、どのように取り組んでいくか見解を伺う。</p>	
<p>7 消防用資機材の軽量化・省力化について</p>	<p>近年、消防を取り巻く社会環境は、人口減少、超高齢社会などによる急激な変化に晒され、消防は救急件数の増加や災害態様の変化に対応する必要がある。また、職員の定年延長、女性消防職員および女性消防団員の増加にも対応が求められている。そこで、電動ストレッチャーや電動ホースカーなど、消防用資機材の軽量化や省力化が必要と考える。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) これまで行ってきた消防用資機材の軽量化及び省力化の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 社会環境の変化による新たな取り組みも必要と考えるが、軽量化及び省力化の今後の方向性について伺う。</p>	<p>那須田消防長</p>